

それいけ!

新米先生



4月のスタートダッシュ！学級経営のポイント

子ども集団の動かし方

「こんなはずじゃなかった…」
そんな前に

4月、たくさんの期待と少しの不安を胸に教壇に立った新米先生。

「いい学級を作っているよう！」と子どもたちに宣言したのに、少し時間が経つと、隣のベテラン先生のクラスの子どもたちと比べて、どうも違う。ざわざわと騒がしく授業にならない。毎日怒ってばかりいて、学校が楽しくない。ケンカや怪我などのトラブルばかり起こる等々…。

自分も子どもに負けじと大声を出すから、声も枯れてきて…。

私も新米先生の頃にはボヤきたくもありませんでした。

「こんなはずじゃなかった…」

そんな前に、最初が肝心な学級経営のポイントをいくつかご紹介します。

最初のルール作りが肝心！

出合いの時、子どもたちは先生にたくさんの興味を抱いています。

「この先生は一緒に遊んでくれるかな。話を聞いてくれるかな」「自分のことを見てくれるかな」「どんな時に厳しくなるのかな」

最初はどの子も、先生に自分を好きになつてほしいので、いい子でいようとするし、張り切ります。この時期を逃さずに、しっかりと担任の方針を示しましょう。

「先生はこんな時にほめるし、喜ぶよ。でも、こんな時は絶対に許さないよ」と、簡単に自分がどんなクラスを作っていきたいのかを自己紹介します。

また、最初の1週間で、掃除や給食の手順や当番、日直や係の内容、学習や生活の細かいルールなど、決めなければならぬことを一つ一つ全体で確認していきましょう。

今は大変でも、一度決めたルールを守っているか、こまめに確認して定着させることが何よりも大切です。子どもたちは先生をよく見えています。1学期は「試されている」と言っても過言ではありません。

子ども集団の動かし方

学級にはたくさんの子どもがいます。集団を動かす統率力は担任に欠かせない力です。ここでは大事な3つを紹介しましょう。

①集中させて説明や指示をする

学習作業などで指示を出す時には、まず子どもを集中させます。ざわついていてる時や、何か作業をしている最中に指示をしても子どもたちは集中しておらず、指示が通りません。

その際、子どもの目が自分を見ているかを確認し、話をやめ、気付くまで黙って待ちます。大きな声を出す必要はありません。

全員が静かになったら、静かになったことをほめてから話を始めます。繰り返すことで、子どもたちは学習し、教師が待つ時間も短くなっていきます。

②話は短く、簡潔に

指示や説明は短く簡潔である方が、子どもたちが集中して聞くので伝わりやすく、記憶にも残ります。

私が新米の頃の話です。

最初にまとめて作業の説明をしまおうと手順を説明し、いざ作業に入る指

示を出したところ、

「先生、まず何をすればいいの?」

と聞いてくる子どもがいます。

「説明しました。聞いてなかったの?」

と聞くと、

「うーん、聞いてたけど、長くて忘れちゃったの:」

と氣まずそうに子どもが答えました。これは私が悪かったのです。それ以来、一つの作業には一つの指示を出すようにしています。

③たくさんほめる

とにかくたくさんほめることが大事です。新米先生は、慣れないうちは、子どもたちの悪いところや直してほしいところばかり見えてしまいかもしれません。けれど、子どもにとっては「これが悪い」と注意されるより、些細なことでも「こんなこともできるの?すごいね!」

とほめられる方が嬉しいのです。また次も頑張ろうという気持ちになります。

感情や口先だけのほめ言葉にならないように、何が、どこが良かったのかを短く簡潔にほめられるようになったら、新米先生も一人前です。

「ほめられた。この先生はほくの頑張りをちゃんと見てくれている!」

と信頼につながっていくのです。

新米先生のうちは

甘えることも大事!

「甘えること」は、新米の今しかできない特権です。

新米先生は緊張したり、一人で頑張ろうとして周りが見えなくなったり、疲れきってしまったりすることもあります。そんな時は、学年の先生や、頼りになるベテラン先生を頼りましょう。

私も学習進度や授業のアイデア、生活指導の悩み、掲示方法や教材教具について、いつでも相談して、一緒に考えてもらい、たくさん育てていただきました。

「教えてください!」の一言で、どの先生もみんな親切に教えてくださるはずですよ。

「教えてください!」

「ありがとうございます!」

の言葉は、新米の今だからこそ連発できる「魔法の言葉」です。謙虚にたくさん先生方から学ぶ姿勢があれば、職場の人間関係もよくなります。

また、こちらの誠意が伝われば、保護者の方々も新米先生を温かくサポートしてください。

自分は周りの先生や保護者、そして子どもにも育てられているのだと自覚して、謙虚な気持ちで、できることを精一杯やってみましょう。

きっと希望に満ちた素晴らしい1年が待っています。子どもたちの笑顔のために一緒に頑張っていきましょう。

